

第38回登別市市民自治推進委員会 ぬくもり部会議事録

(敬称略)

開催日時	令和5年2月14日(火) 17時30分～19時00分
開催場所	登別市役所本庁舎 2階 第1委員会室
出席者	(部会長) 田渕 純勝 (副部会長) 雨洗 康江 (部会員) 山田 正幸、鎌田 和子、今 順子 (庁内委員) 平田 雅樹、安部 直也 (関係職員) 下沢 亮一(健康長寿グループ) (事務局) 大越 智輝、佐々木 健、塚谷 温子
欠席者	佐藤 画美
議題	・登別市総合計画第3期基本計画・第3次実施計画の内容確認 (健康長寿グループ所管分)

【登別市総合計画第3期基本計画・第3次実施計画の内容確認】

第3次実施計画のうち、健康長寿グループの所管事業の説明を行い、委員と質疑応答を行った。概要は次のとおり。

【質疑及び意見】

(部会員)

登別市における後期高齢者の人口はどれくらいか。

(関係職員)

およそ9000人弱である。

(部会員)

フレイルについて今一度説明していただきたい。

(関係職員)

簡潔にいうと老化によっておこる衰え全般のことである。

体力や筋力低下などの身体的フレイルや、気力や認知機能低下などの精神的フレイル、退職などをきっかけとした閉じこもりなどの社会的フレイルがあり、それぞれが関係し合って衰える。認知症や介護状態の手前であるともいえる。

(部会員)

登別市の高齢化率はどれくらいか。

(関係職員)

37.6%である。人口全体に占める高齢者(65歳以上)の割合は減ってきてつつあるが、75歳以上は人口が多い世代ということもあり、後期高齢者だけでみると割合は増えている。

(部会員)

先日、登別市婦人センターで市主催の介護予防の講習を受けたが、参加者が自分を含め二人だけであった。講師を呼んで開催するものなので、もっと周知を行うなどたくさんの方に参加してもらえるよう努めてもらいたい。

町内会でサロンを開くことなどもあり、そのような場に合わせてもらえれば人の参加が見込めると思う。

(関係職員)

12月や1月の人が集まりにくい時期の開催ということもあり、そのときの登別市婦人センター会場ではたまたま参加人数が少なかったという状況である。他の施設では同じ講座で定員近い人数の参加をいただいているところもある。

講師を招いて行う講座などには限りがあるものの、要望があれば出前講座なども開催可能なので、お声がけいただきたい。

(部会員)

身近に、引きこもりがちで食生活や認知機能に不安がある単身の高齢者が住んでいるが、ご家族が遠方にいるなど、どう声を掛けたり支援すればいいかわからないことがある。

(関係職員)

訪問介護等のサービスとは別に、シルバー人材センターでも掃除や炊事の手伝い、話し相手などの支援のサービスがあるので、費用はかかるが利用の検討を勧めてみるという方法もある。

また、地域包括支援センターに相談していただければ、専門の支援員が本人の状況を確認し、必要な支援につなげることもできる。

(部会員)

登別市の方針として、疾病後の療養よりも予防に重点を置いて、健康診査の受診率向上に力を入れてきた経緯があると認識している。

その成果か、道内(35市中)2位の受診率となっているが、それにもかかわらず医療費が国や北海道と比べて高い傾向にあたり、肥満率が高かったりしており、健康診査の受診率向上が医療費の削減につながっているとは思えない。

(関係職員)

医療費が高いのは、近隣に総合病院が複数あり、医療体制が充実した環境にあることも要因のひとつと考えられる。

一方で、肥満率が高いことなどは、健康診査受診後に健康指導や栄養指導につなげられていないことが要因と考えられる。しかし、いまの生活を長く続けてきた高齢者に、新たに生活の改善を促すことは難しいのが現状である。

(部会長)

健康診査の受診者で保健指導等を受けない方については、保健指導等の効果について分析した数字などを用いて周知すれば伝わりやすく、保健指導等を受ける割合も増えるのではないか。

かかりつけ医から健康診査の受診を促されることがあるが、勧奨するかしないかは医師の考え方によって対応が異なる。かかりつけ医からの健康診査の受診勧奨を全市的に行えば、受診率が向上するのではないか。

健康診査の他、がん検診も無料で行えるが、個人病院では取り扱っていない検査もあり、受診率が上がらない。このことについて、なにか改善を図れないか。

検査を行った結果、要再検査と判定され病気の発見につながることもある。それも健康診査のひとつの成果であり、周知して活かせないか。

健康診査は自身の健康に関心のある方は継続して受診する傾向にあるため、新規受診者数を増やすことが大事だと考える。

(関係職員)

健康診査の結果について、検査結果の数値や医療の情報は国保連合会から提供されるが、その総括的な分析となると難しい。

また、個人病院はそれぞれ状況が違うためか、一律に勧奨してもらうことは難しいと感じる。

新規に受診者数を増やすためには、若い世代から定期受診する意識を持っていただくことが全体の受診率の向上につながると考える。例えば社会保険から国民健康保険に切り替わるタイミングに周知を図るなど、対応策を考えていきたい。

分析は難しいが、具体策を講じる必要があると感じている。

●次回日程について

(部会長)

今回は次年度に入ってから開催したい。

- ・ 次回日程は別途協議し、事務局より各部会員に連絡することとなった。